

令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査が、12月20日（金）に公表されました。

全国の結果と比較すると、本県の体力合計点は、令和3・4・5年度に引き続き、小・中学校男女ともに全国平均を上回っております。全国順位は、小学校男子は25位（R5:18位）、小学校女子が20位（R5:17位）、中学校男子は23位（R5:31位）、中学校女子は21位（R5:22位）となっております。

総合評価（体力合計点のよい方からABCDEの5段階で示す）を全国の状況と比較すると、小・中学校の男女ともに、上位のAB群の割合は高く、下位のDE群の割合は低くなっております。

また、昨年令和5年度の本県の結果と比較しますと、**体力合計点**は、小学校男女はやや下回り、中学校男女はやや上回っております。**総合評価**については、上位のAB群の割合は中学校男子が増加していますが、小学校男女は下位のDE群の割合が増加しております。

県教育委員会は、第3期教育大綱・第4期教育振興基本計画において、「（1）小・中学校の体力合計点が継続的に全国平均を上回る。平成30年度の全国平均値まで改善させる」、「（2）総合評価でDE群の児童生徒の割合を平成30年度の全国平均値まで改善させる」という基本目標の測定指標を設定しています。

（1）の指標については、小・中学校男女ともに全国平均を上回ることができています。平成30年度の全国平均値まで改善させることについては、中学校男子のみがこれを達成できている状況です。

（2）の指標については、小・中学校男女ともにまだ達成できておりません。特に小学校は、男女ともに令和5年度よりも低下している状況があります。

小学5年生の体力・運動能力が低下している要因の一つとして、児童の運動量の減少が考えられます。このことは、運動習慣等調査において、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を長時間視聴する割合が増加傾向にあることが判明しており、また、体育の授業を楽しんでいる割合と体育の授業で進んで学習している割合も減少しており、こうした状況から考えられるところです。

中学校では、各学校における取組の成果が現れ、男子はコロナ禍によって低下した体力が回復傾向にあります。また、女子についても平成30年度から続いていた体力低下に一定の歯止めがかかり、回復の兆しが見られています。

このようなことから、県教育委員会としては、各学校において行われている授業改善や「うちの子ども体力・運動能力向上プログラム」を活用した組織的な体力向上の取組の質が高まるよう、引き続き学校を支援してまいります。同時に、運動や活動の見本動画を作成し、運動の苦手な児童生徒が運動の楽しさや喜びを感じることができるように取組を進めてまいります。

また、児童生徒がそれぞれの地域において継続的にスポーツができる持続可能な環境が整備されるよう、各市町村における子どものスポーツ環境の整備や中学校における部活動の地域連携・地域移行を支援してまいります。